



CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

CISV *educates and inspires action* for a more *just and peaceful world*.

CISVは、より公正で平和な世界へ向けて、意欲的に行動する人々を育てます

会長挨拶

CISV日本協会会長 岩崎統子



2025年、CISVは創立75周年を迎えました。日本協会も設立から68年が経過し、2027年には70周年を迎えます。1958年にアメリカシンシナティビレッジへ日本デリゲーションが初めて派遣され、1962年には、アジア太平洋地域で初めてとなるビレッジが東京で開催されました。日本協会設立から今日まで活動を継続できたのは、CISVが掲げる目的にご賛同くださった会員の皆様、ボランティアや協力者の皆様の変わらぬご支援によるものと厚く感謝申し上げます。

長い年月の間には、国際的な活動を困難にする状況に何度か見舞われました。最近では全世界を驚愕させたパンデミックで、CISVの運営・活動も大きな影響を受けたのは皆さんの記憶に鮮明に残っていると思います。残念ながら世界は、現在も様々な要因で緊張する情勢がつづき、さらに気候変動による自然の脅威に曝されております。このような状況のなかでも、世界各地で様々な国際プログラムと会議が開催され、ジュニア会(JB)を中心とした活動も盛んにおこなわれています。2025年度は、日本で6年ぶりに全4支部で国際プログラムを開催できました。日本では特に困難を極める会場探しやプログラム運営を担ってくださった方々、裏方として多方面でサポートくださった方々のご協力なしには実現できなかったことです。

日本協会は1987年法人化にあたり当時第3代会長を努められた渥美健夫氏の多大なご寄付のお陰で、その後38年たった現在も日本協会の財政・運営は安定しており、全支部の国内外の活動を支援しています。2026年3月にインドで開催されるアジア太平洋地域の会議(APRW/JASPARC)は日本協会が共催国として協力し、この地域におけるCISVのさらなる発展に寄与することを願っています。

今年は戦後80年にあたり、戦争や平和に焦点を当てた多くの報道、画像を目にしました。「もう戦争はいらないわよね?これ以上戦争を起こさないですむように、出来ることは何でもしなければならぬわ」と創立者ドリス・アレン博士が幼い息子に語った思いの結実がCISVです。悲惨な戦争、紛争は現在も続いており、子供を含む多くの人々が命を落とし、また廃墟の中で悲惨な状況に置かれている人々も大勢います。博士の「それぞれの立場で現状を受け止めて出来ることをしてくださいね」と問いかけておられる声が聞こえます。青少年を対象にしたCISVの教育プログラムの意義を再確認し、平和な世界をめざして意欲的に行動する人々を子供の時から育てなければ、という思いを強くしました。今後ともCISV活動へのご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

関西ビレッジ開催報告

ディレクター 川越 百花



期間：2025年7月27日～8月23日

開催地：せんりひじり幼稚園

参加デリゲーション：中国、ドイツ、エジプト、スペイン、メキシコ、オランダ、ポルトガル、アメリカ、日本（東海）、イタリア、ベトナム

参加JC：オーストリア、カナダ、ドイツ、オランダ、日本

「もう少しうまくできたなあ...。」キャンプが終わって日常に戻ってきた今でも、たまに考える。

CISVの教育理念に共感し、自分もその一助になればと引き受けたキャンプディレクター。実際は毎日の運営だけで手一杯で、準備期間に思い描いていた理想を実現するための行動には全然手が回らなかった。日々、リーダーやスタッフ、支部、施設のそれぞれの立場から、さまざまな言葉が飛んでくる。常に自分と同じ目線で、このキャンプ全体を見てくれる人はいない。孤独と不安、思い通りに物事が進まないストレスで心身ともに消耗していく。

そんな日々でも活動の原動力になったのは、やはり参加してくれた子どもたちだった。活発に走りまわる生き生きとした姿、異なるバックグラウンドを持つ友人と交流を深めている様子、何気ないことを報告するために駆け寄ってくる気配...。とりわけ、勇気を出してみんなの前で自分の意見や考えを発表できるようになるなどの日を追うごとに見せてくれる成長は、「このために頑張っているんだ」と思わせてくれた。

そして、最終日、みんなの表情を見たとき、この特別な28日間を実現することができて良かったと思うことができた。

ここには挙げきれない多くのみなさまに実現してもらえた日本大会だったと心から感謝しています。

そして、スタッフのみんな、こんな頼りない私と最後までやりきってくれて、本当にありがとう！！



CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

関東ステップアップ開催報告

スタッフ 金淵ゆり



期間：2024年8月4日～24日 開催場所：国立信州高遠青少年自然の家

参加国：

デリゲーション：アメリカ、イタリア、エジプト、イギリス、カナダ、スペイン、デンマーク、ドイツ、ポルトガル、日本

ジュニアカウンセラー：オーストリア、カナダ、イタリア、ポルトガル、イギリス、日本

Origami Village にディレクターとして参加し、約20年ぶりに2025年8月4日から24日までの3週間、山梨県の清里にて関東支部として7回目のステップアップ日本大会「OMOIYARI」が開催されました。デリゲーション10か国（アメリカ、イタリア、エジプト、オーストリア、オランダ、ドイツ、フランス、ポーランド、メキシコ、日本）+日本人スタッフ4名+国際スタッフ2カ国（インドネシア、フィリピン）の12か国から56名。自然豊かな環境の中で、ユースたちは「思いやり（Omoiyari）」というテーマのもと、共に過ごしました。

初日は緊張した面持ちだったユースたちも、ネームゲームやルールづくりを通して少しずつ打ち解けていきました。日々の活動では、文化紹介やディスカッションを通じて多様な価値観に触れ、自分の意見を伝える難しさ、そして他者の考えを受け止める大切さを感じました。ときには意見が食い違うこともありましたが、互いに考えを伝え合うその過程こそが「思いやり」を学ぶ時間となりました。

ローカルインパクトデイでは、JA南アルプスの協力のもと、山梨の桃の共選場で箱詰め作業を体験し、暑さの中で働く人々の姿から、食や地域を支える人々の努力に気づく機会となりました。

宿の方々にも昨年に引き続き多大なるご協力をいただきました。

施設の利用方法や食事内容など、細やかにご配慮くださり、快適に過ごすことができました。改めて心より感謝申し上げます。

エクスカージョンでは中村キース・ヘリング美術館を訪れ、ヘリング氏のアートに触れました。翌日には美術館スタッフをキャンプに迎えて、各国デリゲーションが絵や歌を通して「平和」をテーマにしたアートの表現活動をしました。互いの違いを認め合いながら創り上げた作品は、まさにキャンプテーマを表現した“思いやりの森”のイラストを象徴する時間でした。

互いの文化や考え方の違いに戸惑うこともありましたが、そうしたすれ違いの中で、他者を理解しようとする努力や、少しずつ歩み寄る姿が見られました。それぞれが自分の考えや行動を見つめ直しながら、「思いやり」とは何かを探していったように感じます。

今回のキャンプを通して、ユースたちは相手の立場に立って考え、行動することの難しさと大切さを体験的に学びました。スタッフやリーダーもまた、コミュニケーションの在り方やチームワークの意味を改めて感じる機会となりました。小さな思いやりの積み重ねが、国や文化を越えて人と人をつなぐ一歩となることを願っています。



CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

東海ユースミーティング開催報告

ディレクター 川田歩

期間:2025年8月3日～8月10日

場所:さと館(愛知県)

参加デリゲーション:中国、チェコ、ドイツ、モンゴル、ノルウェー、タイ、アメリカ、日本(関東)、イギリス

まずは、今回の東海YM開催にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。8日間というCISVのプログラムの中で最も短い開催期間でしたが、その短いキャンプ成功のために数十倍の時間と労力を多くの方にご協力賜り、今回開催まで導くことができました。開催3か月前までスタッフがそろわず、自分自身含めてほとんどがスタッフ未経験という状態で準備が始まり、このまま開催することができるのか非常に不安でした。ディレクターという大役をお任せいただきながら、力不足でスタッフや各リーダー、支部の皆様に不安やご迷惑をおかけしてしまったこともあるかと思います。そんな中で大会委員長、支部長副支部長をはじめ、支部の皆さんが、丁寧にサポートしてくださり、無事に8日間大きなトラブル無く終えることができました。

久しぶりに参加した国際プログラムは、自分にとってCISVの楽しさを思い出させてくれるものでした。短い期間でもアクティビティを通して仲良くなっていくユースたち、ディスカッションの中でお互いの価値観をもとに議論を重ねる姿やそれを支えるリーダー達の姿を見ることができました。子供大人、リーダースタッフ関係なく、自分の役割や責任を果たそうと積極的にキャンプに参加する様子を見て、そうした環境を作り上げられる

CISVという空間に誇らしさすら感じました。今回キャンプテーマとして定めていたのは「共感」という一言でした。文化や価値観の違う子供たちが、お互いの気持ちを考えて行動する、そんな優しいキャンプになればよいと思いこのテーマを設定しました。私たちの期待以上に子供たちは相手の国を知ろうという姿勢でキャンプに参加してくれ、キャンプを作り上げるメンバーの一員であるリーダースタッフ間もお互いの役割を尊重しながら協力し、無事にキャンプを終えることができました。

8日間キャンプの難しさや課題も痛感しましたが、それ以上にCISVがもたらす教育的価値を感じることが出来ました。自分が開催したキャンプを終える瞬間、別れを惜しんで泣きながらハグをしていたユースたちの姿を見られたことは自分の一生の宝物です。子供たちにとって今回のキャンプが人生の中で大切なひと時であることを願うばかりです。今回参加した子供たち、リーダースタッフがまたCISVで再会する、そうした次の楽しみを頭の片隅に置きながら、これからのCISV活動にも貢献していければと思います。





CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

九州ユースミーティング開催報告

ディレクター 河合真里

期間：2025年8月10日～17日

場所：北九州市立玄海青年の家

参加デリゲーション：ブラジル、中国、ドイツ、イタリア、日本、ポーランド、イギリス、アメリカ

CISVで最も短いプログラムであるYM8日間のキャンプを開催し、大変充実した時間を過ごすことができました。夏の8日間プログラムは今年が最後となり、次回からは15日間もしくは冬の開催となります。

わずか8日間のキャンプにもかかわらず、子どもたちは涙ながらに別れを惜しみ、「一生忘れられないキャンプになった」と言ってくれました。その言葉に、これまでの努力がすべて報われた思いがいたしました。1年間にわたり準備を進めてくださった大会委員会の皆様、そしてご寄付を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。皆様の温かいご支援により、私たちスタッフだけでなく、リーダーや子どもたち全員が大きな安心と喜びを得ることができました。

今回のキャンプのテーマは「Horizon」でした。平等・公平・公正といった概念は、果たして誰にとっても同じものなのか、また皆が納得できる形とは何か、どうすればすべての人が幸せで満足できるのかを共に考えていきました。

大雨の中でのスタートでしたが、全員が無事にキャンプイン。雨のおかげで熱中症の心配が少なく過ごせた前半、そして遠足やパーティーのあった中日には晴天に恵まれ、暑さの中でも充実した活動ができました。後半になると子どもたちが自ら企画するアクティビティの内容もどんどん深まり、「こんなことをやりたい」という意見が次々出てきました。短期間でも子どもたちの成長がこれほどまでに表れることに、大きな驚きと感動を覚えました。

最後には「キャンプで学んだ異なる視点を持ち続け、自分にできることを考え行動に移していこう」という思いを、それぞれの手形に宣言として書き込み、一つの大きな蝶を作り上げました。これは「バタフライ・エフェクト」を象徴し、小さな一歩がやがて大きな変化につながることを信じ、実際に行動しようというCISVの理念を体現するものとなりました。

大きな怪我や病気もなく、慣れない日本の気候に向き合いながらも無事にキャンプを終えられたのは、皆様の献身的なご支援のおかげです。改めて心より感謝申し上げます。





CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

JB国内・国際行事報告

倉橋 颯(JB部会長)・西山 世里奈(Sr.NJR)

2025年度JB活動は、国際プログラムの日本大会と同じ時期のSummer Schoolを開催しないで、所属支部の日本大会やハイキングなどの地域活性化に力を入れようという目標をたてました。APRW&JASPARCについては、昨年日本で開催されたので関心が高まり、近年最多の参加となりました。

3月には関東JB主催で、山梨県八ヶ岳少年自然の家でWinter School (JBとキッズと一緒に参加する行事)を開催しました。「なべばーてーい」というテーマで、それぞれの個性を大事にしつつも、人間関係においてまとまりのある社会が理想と考え、新たなアクティビティ(以下アクト)を取り入れながら、支部間での仲を深めました。

5月には東海JB主催で、愛知県美浜自然の家で「音楽」というテーマでYouth Seminar (JB参加者のみの行事)を行いました。すべての経験に無駄なものはなく、全部次につながる大事なステップだから、未来を見て進んでいこうという思いを込めました。音楽を聞くアクトや、挑戦を恐れず楽しむことの大切さを深く理解するアクトなどをしました。自分の周りの環境を振り返ったり自分の決定への責任についても考えました。

8月下旬には、関東でNJBC&Wが行われました。今年度は、日本大会の日程を考慮し、8月末に行いました。前半にWaterアクトやセッションを楽しみ、後半は次年度の部会長やJBルールの改定などを行いました。

国際行事としては、まず2月に香港で、CISV Hong Kongが総力を挙げ、TEA (Teamwork of East Asia: Teamwork of East Asia:

東アジアのJB行事)が開催されました。各国から6人以上が参加し、バランスのとれた行事となりました。JBについてというよりは、異文化理解やセッションを作る練習に力をいれました。TEAの一番強みであるつながりがとてもよく感じられる行事でした。ビデオからも楽しさがすごく伝わってきました。

また今年は、TEA Bagという、新たな若いJBへの行事も韓国で行いました。簡単な導入セッションが多いため、TEA全体の底上げにとっても重要な役割を果たすものでした。

4月にはAPRW&JASPARCがタイで開催されました。IJRも参加し、JBやCISVについて多くを学び、CISV Internationalの視点を共有できた行事でした。セッションも様々な段階の人に向けて、複数の中から選べる機会が多く、今回参加者が多かった日本からすると、各々が自分らしくなにかを持ち帰られる行事でした。

8月のブラジルでのIJBCでは、激変する国際情勢の中で、過去に国際JB活動の中で起きた意見の衝突を振り返りながら、CISVのような平和的中立的団体における解決方法を探る話し合いを多くしました。全てのJBで決定事項を決める場面では、組織内での態度を考える指針が必要だと決まり、次のIJBCに向けて、解決策を考えるチームも発足しました。

いつも私たちJBの成長と挑戦を応援してくださる皆様のおかげで、全ての活動を成功させることができました。来年度以降も成長を続けてまいりますので、ぜひ皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。





CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

国際関係報告

国際理事 大門樹久世

2025年のAPRW (Asia Pacific Regional Workshop) & JASPARC (Junior Asia Pacific Regional Conference) はタイで開催されました。日本からはAPRWに10名、JASPARCには11名が参加しました。

JASPARC参加のJB達は同世代の仲間との楽しく活発な話し合いを通して交流を深めたようです。APRW参加者もそれぞれのセッションでたくさんのことを吸収し国内の活動に活かしてくれています。

並行して開催されたAPAC (Asia Pacific Annual Conference) では、改定版のNational Report Form (各国の状況を毎年記入するフォーム) に関する説明がありました。新しいフォームでは、「支部で活動しているすべての方はPositive Behavior Policy (日本語訳)を理解しているか」「学びや改善につなげるために、振り返りの仕組みがあるか」など、細かい点について、各国が自国の状況を報告することになっています。

60を超える参加国を擁する大きな組織であるCISV国際にとって、今回の改定は、プログラムをより安全、かつ確実に運営するための対策のひとつであると同時に、各国に送られた「理想とする状態に近づいてほしい」というメッセージでもあります。日本はほぼ基準を満たしていますが、今後もそれらを維持していくために、各担当から確認やお願いがあるかもしれません。その際は、どうぞご協力をお願いします。

現在CISV国際が行なっているもう一つの大きな作業として、それぞれの役職が担う、役割の明文化があります。国際理事に関しても、各国の理事からの情報収集が行われ、役割に関する草案が作成されました。

同じ流れで、運営形態・方法についても明文化の方向で草案の作成が進んでいます。その中にCISVで活動する人たちのウェルビーイング(幸福度)に関する項目もあります。目の前の事柄に関する意見の相違から、攻撃的な態度をとり、それを受けた側の心の負担が増えるという状況があつてのことだと思いましたが、同じ国際平和という目標に向かっているのに、残念なことだと思えます。

CISV活動を楽しいものにすることは、活動を続けていくためにとても大切です。国内では、10月に開催されたJAM(Japan Annual Meeting)にて、福德理事が中心となって、日本で活動している人たちのウェルビーイングを高めるべく、セッションを開催しました。日頃の活動の中で忘れがちな、でもとても重要な、「お互いに感謝する」「お互いを認め合う」という基本的な点を再認識しました。参加者全体で共通認識を持つことができ、大変有意義だったと思います。今後も私たちの向かっている方向を忘れずに、日々の活動を“楽しく”続けられるように、みなさんとアイディアを出し合いながら進めていければと思っています。





CISV Japan
Building global friendship

CISV日本協会ニュース2025

2026JAM開催報告

運営委員長 橋上浩子

2026JAMは、2025年10月11日(土)～12日(日)の2日間、KOKO PLAZA 大阪市立青少年センターにて開催されました。

数名のオンライン参加者を含め、合計101名の参加がありました。今年度は関西支部にご協力いただき、2025年5月頃から理事や各支部長とオンラインミーティングを重ねながら内容を整えてまいりました。

1日目: 部会・全体会・トレ研・共創セッションと盛りだくさん

初日は、各部会の開催に続き、全体会(各理事・各部会・各支部の報告)、LTC/STCのトレーニング研修、そして「ボランティアのための私たちの活動をより良くする」共創セッションなど、多岐にわたるプログラムを行いました。

例年のように、JB部会の司会進行・アクティビティでスタートし、最後は笑顔いっぱいの集合写真で締めくくることができました。JB部会は本来、4支部でJBトレーニングを開催しているため、全体会の司会・アクティビティを担うことは大きな負担ではございますが、当日の柔軟な時間調整、ハプニングがあっても参加者をリラックスさせてくれる楽しい雰囲気は、日ごろの集合教育や行事で培われた力の賜物だと感じました。

夕食後に実施した共創セッションには50名以上の参加がありました。「～感謝を分かち合い、未来に向けた90分～」という副題のとおり、誰もが安心してボランティア活動が続けられるためには何が必要かを考えることを目的としたセッションで、6グループに分かれてのグループワーク形式で進められました。

① 感謝とリスペクト

最初の30分は「称賛と感謝」をテーマとした時間でした。

「夏のプログラム、最高の瞬間と最高の仲間」をテーマに個人ワークを行い、その後、グループ内でエピソードを共有。お互いの具体的な経験に対して感謝とリスペクトの拍手を送り合う温かい雰囲気に包まれました。

② 私たちが向かっていく未来

後半は未来に向けたビジョンづくりがテーマでした。「私たちは何のためにボランティアをするのか」「私たちが創る未来(夢と希望)」について考え、日本サッカー界の取り組みの紹介を通して学びを深め、CISVのミッション(Our Mission / Our Values)を改めて確認しました。

続いて、個人ワークとグループワークを行いました。

このセッションの企画・進行については、福德理事に全面的にご支援いただきました。

終了後、参加者の皆さんは満面の笑顔にあふれ、それぞれが大きな

充実感を感じている様子が伝わってきました。まさに「感謝とリスペクト」という言葉を体現する時間となりました(^ ^)。

2日目: 各支部の運営に関する「本音トーク」第2弾

12日午前は、「各支部の運営に関する本音トーク」第2弾を実施しました。JB部会、STC部会及びLTC部会はこの日も終日トレーニング研修を行っています。

「本音トーク」では、各支部に分かれ、財政面・人材面などの具体的な課題を共有しました。また、日本大会の補助額増加が支部運営にとって大きな助けとなっている点も報告されました。

各支部の現状を踏まえながら、今回はさらに「CISV日本協会の5年後を考える」というテーマを設定し、以下の項目について議論を深めました。

- ・ 各支部事務局の在り方
- ・ 名簿管理の方法
- ・ 会計の一元化
- ・ 各支部の郵便物管理

これらのテーマを通じて、今後の日本協会の方向性や、支部との関わりについて考える貴重な時間となりました。

昨年に続く「本音トーク」となりましたが、各支部から率直な声が寄せられ、多くの課題が共有されました。それらを解決するには時間を要する部分もありますが、支部運営の未来を考えるための大切なきっかけとなりました。また、互いに本音を語り合うことができた背景には、11日の共創セッションで体験した「感謝とリスペクト」の共有が大きく寄与したのではないかと感じました。

2027年度のJAMは東海支部が担当されます。次年度も笑顔でお目に掛かれることを楽しみにしております。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

CISV日本協会ニュース第18号

発行日: 2026年1月15日

編集責任者: 広報プロモーション部会

発行: 公益社団法人CISV日本協会

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-218

Tel: 03-5261-8560 | Fax: 03-5261-8540

Email: japan@cisv.org | LINE ID: @cisv

公式ホームページ: www.cisv.jp

Facebook: www.facebook.com/cisvjapan